

# 医療の質測定 定義書

更新日：2022年8月8日

## 基本情報

指標番号  
2132

名称  
アスピリン内服患者の退院時酸分泌抑制薬（PPI/H2RA）処方率

分母  
退院時にアスピリン内服薬が処方されている18歳以上の患者

分子  
分母のうち退院時に酸分泌抑制薬（PPI/H2RA）が退院時に処方された症例

指標群  
循環器系疾患 薬剤

意義  
治療内容をみるプロセス指標

年度  
2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット  
DPC 様式 1,F ファイル,EF ファイル

## 指標の定義算出方法

### 分母の定義

1. 解析期間に退院した症例を対象とする。
2. 退院時にアスピリン内服薬が処方されている18歳以上の症例Fファイル、もしくはEFファイルにおいて、退院時に以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
1143001	アスピリン	○	○	○	○	○	○	○
1143010	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○	○
3399007	アスピリン	○	○	○	○	○	○	○
3399100	アスピリン・ダイアルミネート	○	○	○	○	○	○	○
3399101	クロピドグレル硫酸塩・アスピリン		○	○	○	○	○	○
3399102	アスピリン・ランソプラゾール			○	○	○	○	○
3399103	アスピリン・ボノプラザン						○	○

3. 退院時処方の判定：2010年度～2015年度：FファイルもしくはEFファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」2016年度～：EF-17・F-19行為明細区分情報（12桁の数値）の1桁目「退院時処方区分」が「1」
4. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

# 医療の質測定 定義書

更新日：2022年8月8日

## 分子の定義

1. 分母のうち酸分泌抑制薬（PPI/H2RA）が退院時に処方された症例 F ファイル、もしくは EF ファイルにおいて、退院時に以下の薬価基準コードに相当するレセ電コードが含まれる症例。

薬価基準コード7桁	成分名	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
2329022	オメプラゾール	○	○	○	○	○	○	○
2329023	ランソプラゾール	○	○	○	○	○	○	○
2329028	ラベプラゾールナトリウム	○	○	○	○	○	○	○
2329029	エソメプラゾールマグネシウム水和物	○	○	○	○	○	○	○
2329030	ボノプラザンフマル酸塩			○	○	○	○	○
3399102	アスピリン・ランソプラゾール			○	○	○	○	○
3399103	アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩						○	○
6199100	ランソプラゾール・アモキシシリン・クラリスロマイシン	○	○	○	○	○		
6199101	ランソプラゾール・アモキシシリン・メトロニダゾール	○	○	○	○	○		
6199102	ラベプラゾールナトリウム・アモキシシリン水和物・クラリスロマイシン		○	○	○	○	○	○
6199103	ラベプラゾールナトリウム・アモキシシリン水和物・メトロニダゾール		○	○	○	○	○	○
6199104	ボノプラザンフマル酸塩・アモキシシリン・クラリスロマイシン				○	○	○	○
6199105	ボノプラザンフマル酸塩・アモキシシリン・メトロニダゾール				○	○	○	○
2325001	シメチジン	○	○	○	○	○	○	○
2325002	ラニチジン塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○
2325003	ファモチジン	○	○	○	○	○	○	○
2325004	ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	○	○	○	○	○	○	○
2325005	ニザチジン	○	○	○	○	○	○	○
2325006	ラフチジン	○	○	○	○	○	○	○

2. 退院時処方の判定：2010年度～2015年度：F ファイルもしくは EF ファイルにおいて、出来高・包括フラグが「1」 2016年度～：EF-17・F-19 行為明細区分情報（12桁の数値）の1桁目「退院時処方区分」が「1」

## その他

### 薬剤一覧の出力

はい

### リスク調整因子の条件

### 指標の算出方法

分子÷分母

### 指標の単位

パーセント

# 医療の質測定 定義書

更新日：2022年8月8日

## 結果提示時の並び順

降順

## 測定上の限界・解釈上の注意

1. アレルギーなどの適用外の患者も含まれてしまう為、値が低く算出される可能性がある。
2. 他の疾患で処方済みの患者は含まれない可能性がある為、値が低く算出される可能性がある。
3. アスピリンの合剤も含んでいる。
4. ガイドラインでは低容量アスピリンとなっているが、分母は用量にかかわらずアスピリンを内服している患者としている。
5. 2020年5月にアスピリン/ボノプラザンフマル酸塩配合剤が新規販売開始されたため追加した。

## 参考資料

### 参考値

### 参考資料

1. 消化性潰瘍診療ガイドライン 2015 第2版